The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

ヴァイシャーリー疫病救済譚と『却温黄神呪経』の編成

小　林　圓　照

I．はじめに

禅宗（臨済宗）で読誦・依用される数種の陀羅尼のうち，「却温神呪」がある．この神呪が所説内容とする母胎は『却温黄神呪経』（続蔵経第3冊所収）であるが，従来，この神呪経は来歴が定かでない経典とされてきた．論者はこの度の発表でこの課題を解明して，この経の位置を明確にしたい．そのために，まずこの経の冒頭にある「維耶離国の疫病事件」に着目し，その周辺に課題の中核があると推察した結果，この『却温黄神呪経』編成の史的背景及び素材とこの経形成のプロセスが明らかになってきた．即ちこの経は，ヴァイシャーリー（維耶離）における疫病の発生とそれに対処する釈尊の救済巡行譚を伝承し，その系統に連なる『除恐災患経』や『灌頂経大神呪経』第9巻などの数種の神呪経や陀羅尼を素材として構成されたものである．それは疫病・温黄（発熱性の急性伝染病）に対処する特別の目的で編成され，簡にして要を得て，実践に沿った中国撰述の神呪経であり，その経中から「神呪」の部分が抽出され読誦されたのが，「却温神呪」であった．

II．ヴァイシャーリーの疫病と釈尊による救済譚

ここで言う「維耶離国の疫病」とは，ブッダ在世の頃（一説では仏成道のちの5年目の雨安居直前ごろ），リッチャビ族の国・維耶離城で発生した疫病である．この伝承が，史実であったか，創作説話であるかは未だ検討されていない．南伝では，パリッタ誦呪として，その筆頭に位置づけられている『ラタナスッタ』（宝経）に関連する因縁譚に属し，また『ダンマパダ』（法句経）や『スッタニパータ』（経集）対する注釈書に見いだされる．世尊のこの地域での救済が成功したのち，釈尊に従う出家者が輩出した．後代，この伝承に基づいて，セイロン（スリランカ）島の王・ウパティサの時代に，飢饉・疫病に対して，それを範とした類似の巡行行事を執行したケースが『小王統史』に認められる．

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

いっぽう，北伝ないし大乗に近接した，この伝承の素材としては，『マハーヴァスツ』（大事）がある．この経は大衆部から分派した説出世部に属し，部派から大乗を触発したマトリックス（母胎）的な存在である．問題の疫病救済譚は，この経中の「チャトラ・アヴァダーナ」（日傘説話）章に説かれ，次の内容である．

釈尊在世のとき，商工の盛んな都城ヴァイシャーリーにおいて飢饉が原因で疫病が流行し，壊滅的な打撃を受けた．あらゆる手段が講ぜられたが止まらず，最後に王舎城に逗留していた釈尊に，リッチヤヴィ族の賢者・トーマラ首長のマハリーが代表となって赴き，市民の救済を願い出るのが発端である．ビンビサーラ（あるいはアジャータシャトル）王の許可を得て，釈尊は王の仕立てた従者や軍隊に護られた五色輝く車列と共にガンジス河の南岸に向かい，到着後，用意された船により渡河する．北岸の船桟橋に迎かえ待つヴァイシャーリー城民のリッチヤヴィ族は，五色の馬車，傘蓋，幢幡，装飾などで歓迎した（『除恐災患経』553頁中）．そこで釈尊は，供養された傘蓋の数だけブッダを化作して説法する．大白傘蓋の供養を受けた釈尊が城の領域に入り，都の城門の閾石（しきい）を踏んだ途端，疾病の原因となっていた病魔は逃走し始め，更にブッダへの讃頌を唱えることによって，その国都の全域が浄化され，疫病は沈静化するのである．パーリー注釈などでは，釈尊に指導されたアーナンダ（阿難）が仏鉢から水を撒いて（洒水），『ラタナスッタ』を唱えること（宝経のパリッタ化の嚆矢か）によって解決する．

この説話には他の多くの異なった伝承がある．前述のように『宝経』の注釈に始まり『増壱阿含経』(32)，『菩薩本業経』，『除恐災患経』，『根本説一切有部薬事』，『大護明大陀羅尼経』などが挙げられる．とくに『請観世音菩薩消伏毒害陀羅尼呪経』はこの伝承のなかに観音救済信仰を導入して注目される．

また衆生の苦難の救済のために，堂々と行進する釈尊の〈ヴァイシャーリー・ガマナム，維耶離への行進〉の勇姿を，「首楞嚴＝シューランガマ」（Śūraṃgama 英雄的な前進）の具体的で，代表的な利他行の典型と見なすこともできる．因みに『維摩経』の序品（仏国品）と結経（法供養品）とが，この救済譚に関わる「日傘説話」を発想素材としていることが証明できる．例えば「仏国品」のモチーフでいえば，ブッダに供養された五百の傘蓋が三界を覆うような一大白傘蓋と化して出現したり，ブッダの足指按地の行動がヴァイシャーリーを仏国土（浄土化）に変容して見せるなどのブッダの神変の経説などで明らかである．しかも『維摩経』は，その編成以後，その思想を運ぶ数種の「維摩家族」経典群をもっている．いっぽう『維摩経』と多くの類似，ないし類同の共通した着想項目をもつことで，

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

その家族内ではないが関連する「親族経典」とも言うべき『首楞嚴三昧経』は，維摩経が「日傘譚」を依用したことを知っており，また両者（日傘譚と維摩經）を成立素材として利用したとみてよい．例えば，この三昧を獲得し，妙喜国からやってきた現意王子は，この娑婆世界が淨見世界と呼ばれる未来には，「維摩」（ヴィマラ・キールティ）から採ったと類推できる「淨光称王」（ヴィマラ・プラバー・キールティ・ラージャ・汚れ無き光明との名声ある王）として出現する．このことは維摩経が首楞嚴三昧経に先行することの一証左である．「三昧への勇猛な前進」と「衆生救済への果敢な進行」として禅定と救済との相違はあっても，共に菩薩道における「首楞嚴」の思想（略して楞嚴思想）の淵源がここにある．時代は降るが，中国の密教や禅で著名な『首楞嚴経』（大仏頂如来密因修証了義諸菩薩萬行首楞嚴経）やそこから抽出した「首楞嚴呪」もこの延長線上にあり，そこから『仏頂尊勝（白傘蓋）陀羅尼』や楞嚴行道を通じて，その思想と実践を学ぶことができる．

このような神呪経典の展開からすれば禅宗で依用する大部分の誦呪文や陀羅尼がこの思想から発するとも言える．これらの視点から『却温経』を検討した結果，この経編成の素材として，同じ救済譚に属する『除恐災患経』と『灌頂経』（第9巻）と一種の治病の陀羅尼である『仏説呪時気病経』などがこの課題に該当する．要するに，これら諸経典と『却温神呪経』との内容が類似しているのではなく，むしろ翻訳の誦呪経典を素材として，『却温黄神呪経』（以後，『却温経』と呼ぶ）という二次経典を編成したと考えられる．以下『却温神呪経』の全文を右段に，従って素材と推定される関連の経文を左側に，対照しつつ検討したい．

Ⅲ．『仏説除恐災患経』（大正蔵17巻552頁・上）と『却温経』（続蔵第3冊・乙3—388d）

（1）両経の冒頭がほぼ一致する．

聞如是．	｜	聞如是．
一時，仏遊王舎城竹林精舎．	｜	一時，仏遊王舎城竹林精舎．
与四部弟子大衆倶会．	｜	与四部弟子大衆倶会．
説上妙法．	｜	為説経法．

冒頭の状況として，仏陀世尊は，王（ここでは阿闍世王）の要請で，雨安居前に，弟子達と共に竹林精舎に来られた時に相当する．

（2）維耶離国の疫病の蔓延状況もほとんど同文である．

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

爾時，維耶離国，萬気疫疾，	｜	爾時，維耶離国，属疫気，
威猛赫赫，猶如熾火，死亡無数．	｜	猛盛赫赫，猶如熾火，死亡無数．
無所帰趣，無方療救．	｜	無所帰趣，無方救療．

（1），（2）の部分の両経対比の結果から，『却温経』の冒頭は，『除恐災患経』を素材としていることが明らかとなる．疫病「温黄」（発熱性の急性伝染病）に対処する専門の経と呪を編成することを企図している．「温」は熱病であるが,「黄」は身体が黄色に変化し，黄疸を発症することを指す．この部分は「ヴァイシャーリーの疫病」と「世尊の救済譚」を重視し，それを説く諸経典を熟知し，素材を選択して，正当性をもった経証を含むと認めて採用された．

Ⅳ．『灌頂経』（巻 9，大正蔵 21，521 頁上）と『却温経』との対比

「灌頂経』の中でも巻第 9 は『仏説灌頂召五方龍摂疫毒神呪上品経』と呼ばれ，内容的にもヴァイシャーリーの疫病救済譚を全面的に受け継いでいる．発端の部分も『恐除災患経』と重なり，最適の経証となるとして用いたに相違ない．

（3）阿難の釈尊への報告と救難要請

於是，阿難，・・・長跪合掌，而白仏言．	｜	於是，阿難，長跪合掌，白仏言．
維耶離国，（遭此疫毒病・・・・・・・	｜	彼維耶離国，遭温気疫毒．
唯願世尊，（聖術）・・（令彼衆生得脱	｜	唯願世尊，説諸聖術，却彼毒気，
厄難，解脱彼苦，得聞法音．）	｜	令得安穏，離衆苦患．

いわゆるこの救済譚に関連する同類経典，例えば前出の『除恐災患経』などでは，阿難も登場するが，救難要請者の役目はしない．維耶離国からの使者が世尊に救難要請をする．この箇所の両経（『灌頂経』と『却温経』）は，使者とその役目の記述を省略するために，阿難に要請の代役をさせ，筋を単純化したものと推定できる．また連続した文中ではないが，同経に「聖術」などの用語もある．

（4）疫病の原因は七鬼神であること（『灌頂経』は竜王・小竜・鬼神など）の表明と解決法が指示される．

（賢者阿難）・・・・	｜	仏告，賢者阿難，汝当聴受之．
（吐悪毒気，侵陵萬姓）	｜	有七鬼神，常吐毒気，以害萬姓．
（中毒病者，頭痛寒熱，百節欲解）	○	若人得毒，頭痛寒熱，百節欲解．

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

（皆当説名字護病者身）	苦痛難言，人有知其名字者，
（消毒不害病者）	毒不害人．是故吾今為汝説之．

『却温経』巻9ではこの疫病の原因は，毒気を吐く七鬼神であるが，『灌頂経』の場合は，状況により，諸竜王，小竜および山精，魅鬼などである．これらに毒気を当てられて，人々（万姓）は，頭痛や寒熱で身体が今にもバラバラになりそうな，云うに云われぬ程の苦痛に襲われる．ただその鬼神等の名前（名字）を明知しておれば，毒害から逃れられる．神呪のなかでそれを唱えて，相手を知り，鬼神名を挙げ，コントロール（摂）して，退去を命じ，追い払う（除遣）こととなる．疫病の対象は異なるが，解決法の中心はこの『灌頂経』巻9を採用する．

（5）鬼神を鎮めるに先立ち，先ず「三宝帰依」に依って加持をえる．三宝帰依の文は，神呪一般に認められ，その具体名や追加の菩薩名などは状況によって添加される．右側の『却温経』の三宝名の語尾のみが，梵語として「耶」（aya．単数与格）を示し，以下の尊名が変化しないのは，中国撰述であることの一証左でもある．つぎの左側は『仏説呪時気病経』（大正蔵21，491上）の三宝各名の一例である．

	阿難言，願欲聞之．
	仏言，若四輩弟子，欲称鬼神名安之時，
	当言，
（南無仏，南無法，南無比丘僧．	「**南無仏陀耶，南無達磨耶，南無**
南無過去七仏，南無現在諸仏，南無未来	**僧伽耶，南無十方諸仏，南無諸菩薩**
諸仏，南無諸仏弟子，南無諸師，南無	**摩訶薩，南無諸聖僧，南無呪師，**
諸師弟子．）	**（某甲）**」．

三法帰依とその讃誦の唱名は，この類の陀羅尼の基本である．むしろパリッタの『宝経』にある如く仏教陀羅尼そのものが，「三宝帰依の讃頌」に始まったといってよい．三宝讃誦によって，三宝の威力を獲得する（加持を得る）のである．十方諸仏・菩薩については，大乗の立場からの添加であり，聖僧・呪師を挙げるのは，特殊，具体的な目的をもって唱える者への加勢を要請するためであろう．

（6）前呪「沙羅佉」サラギャの三唱とその意味

○三宝帰依の誓願により弟子の神呪効力	今我弟子所説神呪，即従其願．
の発揮．	如是神名，我今当説．

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

○　灌頂経には，該当部分なし．	「**沙羅佉（沙羅佉，沙羅佉）**」．

この呪本を唱える弟子（我々）の鬼神撃退の願いによって加持を要請し，三宝の加護力によって温病治癒の効果が発揮される．それゆえ「沙羅佉」（サラギャ）と三回唱えなければならない．この部分を〈**前呪**〉と呼ぶ．問題は三宝に対して「追い払い給え！」という意味なのか，七鬼神に対して「退去せよ！」と叱咤しているかのどちらかである．むろん「疾去，疾去」の句はあとの（8）a 項に出るのであるが，原梵語はどれに当たるのであろうか．後出の visarata,visara などの例に従うとすれば，saraga,sarga などの梵音が想定できるが検討を要する．

V．『仏説呪時気病経』（大正蔵 21 巻・A 本・491 上，B 本・632 中・下）と『却温経』との対比

（7）本呪・七鬼神の名字を挙げる．

令我所呪，（礼是已便説是呪），	三説「沙羅佉」已，便説呪日．
即従如願．	「**夢多難鬼，阿佉尼鬼，**
「阿佉尼，尼佉尼（尸），阿佉耶（那），	**尼佉尸鬼，阿佉那鬼，波羅**
（尼佉尼），阿毘（比）羅，慢多利（梨）	**尼鬼，阿毗羅鬼，波提**
（尼佉尼）波池（陀）尼，波提梨．」	**犂鬼．**」
	仏言，是七鬼神呪，名字如是．

『却温経』の七鬼神とは，七母神（サブタマートリー＝七摩旦里天）を指すようであるが，疫病との関連が明らかではない．下の表示の第一段が『却温経』の七鬼，右へ第二枠が『呪時気病経』所収のもので，一応，梵音としても対応できる．第三枠は『灌頂経』（巻第 1）所収のもので『仏説灌頂七万二千神王護比丘呪経（495 頁中・下）所説の十神主名のうち，比定できる八王を配した．十神王の名号を呼ぶことによって五温鬼が退散する．〈各テキストの異字は（括弧）内で示す〉．

1，夢多難鬼（謨多南鬼）	慢多利（梨）	慢多羅（一応の比定）
2，阿佉尼鬼	阿佉尼	阿佉尼
3，尼佉尸鬼	尼佉尼（尸）	（尼）佉尼
4，阿佉那鬼	阿佉耶（那）	阿佉尼
5，波羅尼鬼	波池（陀）尼	波陀尼
6，阿毘羅鬼	阿毘（比）羅	阿比羅
7，波提犂鬼	波提梨	波提梨伽

となるが，残った二つの（尼伽尼）は，例えば，女性名詞語尾 i or ī（尼）＋〈衆，一群，従者を意味する〉gaṇī or gaṇe（伽尼）のような複合語の語尾であろうか．大黒天の侍女の説もあるが，七母神それぞれに眷属する女鬼か．これらの還梵や

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

同定の検討作業が必要である．梵音本来からすれば「鬼」の字は不要であろうが，整理（中国化）の過程で七鬼と明示した．この本呪は，〈**七鬼呪**〉と呼ばれた．

（8）温熱をもたらした鬼神を撃退する神呪誦持と作法を順次に述べる．

〈a〉，神呪〈**結句**〉の読誦の作法と効果

「速出，速出，速去，速去，・・	若人熱病時，当呼七鬼神名字言．
速去，今当速去，・・・停莫住．」	「**疾去，疾去，莫得久住．**」
（毘奈耶薬事）	我弟子身，令毒消滅，，病速除愈．

結句の「疾去，疾去，莫得久住」は，リズムもよく病鬼への最後の一撃となるが，同類経典の『根本説一切有部毘奈耶薬事』（大正蔵巻24・26～27頁）では，該当句は，「速出！nirgacchata（4回），速去！palāyata（2回），（汝若欲悪心者）今当速去！kṣipraṃ palāyata（1回）停莫住！mā tiṣṭhantu」とほぼ対応する．対処の陀羅尼呪としては「毘娑羅他」visarata（4回）と「毘娑羅」visara（4回）を唱える．

〈b〉，三宝帰依と神呪読誦の威神力を顕示する．

○行事執行の宣言	我弟子，今帰依三宝，焼香礼敬，
	行是諸仏所説神呪．
○抵抗する鬼神には，対治の	若有鬼神，不随諸仏教者，
手段を持つ	頭破作七分，如阿犂樹枝．

頭破作七分の阿犂樹花の比喩は，法華経にもあって有名であるが，神呪経典の常套の対治法として諸処にみられる．

〈c〉，対処法として，病人に神水を飲まして，三七遍（21回），神呪を更に読誦する．同類経典では，病人には洗身，その汚染場所では，清浄水の洒水が通常である．ここでは神水の製法などの記述はないが，呪文に注いだ水であり，汚染のない泉水や河川の水を用いたと思われる．

○一日・・・乃至七日が一般であるが，	若人得病，一日二日三日，乃至
一日，・・・乃至四日のケースもあり，	七日，熱病煩悶．
発熱の病状による．	先呪神水，以与病者飲之．
○位置的には四方と中央との，赤，白，	当三七遍誦此呪経．
青，黒，黄の各気の五温鬼である．	病毒五温之病，並皆消滅．

五温の病に対しては，その原因が五温鬼であることが推定できる．『灌頂経』

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

巻8（519頁・下）では，南方赤気温鬼，西方白気温鬼，東方青気温鬼，北方黒気温鬼，中央黄気温鬼に該当する．ただ七鬼神との関連が問題だが，五気温の症状ということであろうか．またインドの五温鬼神と中国の五温鬼（女鬼ではなく四季節と総監の五力士とする「紀要5参照」）との関係も興味のある所である．

〈d〉，対処法として，門を仮設し，門額に鬼神名を書き，その神名毎に，五色の縷線を結びつけて，門上に掲示する．釈尊の維耶離国への車列が五色に荘厳されていたことを持ち出すまでもなく，この関連での五色の縷線の使用は，一応インド起源としたい．その用例は，『千手経』，『灌頂経』，及び『陀羅尼雑集』などに一般に見られる．例えば「誦呪すること五遍，五色の縷を結び，十四結と作し，両手（の痛処など）に繋ける」（538頁·下）．中国の五色との関連も考察すべきだが，各色の順序などにも相違がある．次の左側は『仏説呪時気病経』である．

〈仏説呪時気病経〉（A本・491頁上，B本・632頁下，A本の異字は括弧内）	
○　若人得時気（疾）病，結縷（縷結）七過呪文，並書紙上鬼神名字．	○　若亦立門，書著気病者，当額書七鬼神名字．
○　若紙槐皮（著紙）上繋著縷頭．	復取五色縷線，各各結其名字，繋著門上，大吉祥也．

〈e〉，対処の実効を永く挙げるため，この呪経を専心，受持し，斎戒して（十方諸仏に敬礼し）誦経に勤める．

〈『灌頂経』巻9（523頁・中）〉	若能勸誦此経，専心受時，斎戒不喫薫辛，誦此七鬼神名字，温鬼永断，不過門戸．自進至患家，鬼見背走，一身永不染天行．
○　当操漱口歯清浄，受行斎戒．不食五辛，不得飲酒敢肉．	
〈『仏説呪時気病経』A（491頁上）〉	
○　読是呪時，当斎戒清浄，澡漱焼香，正心乃之説．	

〈f〉，他の人にも，この神呪経を勧めて，書写，受持，読誦をさせる．それができない人には，経を竹筒に入れて，門戸に載せれば温鬼の侵入を防ぎ，息災で長生きができる．この場合，仮設の門ではなく，家宅本来の門であろう．これらの対処法については，中国的な活用かもしれない．むしろ逆に五温黄に対する中国の民俗的な対処法を一致させるか導入して，自家薬籠化したとも推定できる．

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

○ 〈e〉の項目に類似するが，一般経典と同じく，神呪経の流通を目指す．	若能専心，勧人書写受持読誦 此経．消殃却害（無事不害）
○ 長寿，吉祥を得る記述は周辺呪経に散見できる．	若人不能誦，得竹筒盛， 安門戸上，温鬼不敢過門， 亦説延年養寿，大吉祥也．

（9）この神呪経の流通分（経名の決定と歓喜奉行）である．『灌頂経』一般では，これに類した流通分になっているが，一応，『灌頂経』第9巻と対応すると，形式手法は明らかに『灌頂経』を素材にしていることが判る．

阿難問仏言．説是語巳，当何名之， 云何奉行．	阿難，叉手白仏言．当何名此経． 云何奉持．
仏言阿難，此経名為「灌頂大神呪経」．	仏言，此経名為「却温神呪」．
又名・・・・・・・如法受持．	仏説如是．
大衆人民天龍鬼神，聞経歓喜， 作礼奉行．（523・下）	天龍鬼神，一切大衆，聞呪歓喜， 作礼奉行． 却温神呪経

結語

『却温黄神呪経』の全文に亙て，その構成について検討した結果，ほぼ当初の課題が解明された．加えて『灌頂経』（第9巻）が「維耶離国の疫病と釈尊の救済譚」の経典群の系統に属することも初めて明らかにした．

〈参考文献〉
論文：
1）「梵文薬事欠損箇所の部分的補填－ヴァイシャーリー疫病伝説－」：岡田真美子氏（印度学仏教学・高崎直道博士還暦論集，1987年7月）
2）「大乘化の手法一維摩経仏国品のケース」：小林 圓照（印度学仏教学研究，52巻1号，2004年3月）
3）「却温神呪」を読誦する効果－『仏説却温黄神呪経』訳注－」：妙心寺派教学研究紀要6・教学研究委員会編，2007年5月）・刊本：『禅門陀羅尼の世界』：野口善敬氏（2007年12月，禅文化研究所刊）

〈キーワード〉 却温黄神呪経，ヴァイシャーリー疫病救済譚，禅宗の陀羅尼

（花園大学名誉教授，文博）

NII-Electronic Library Service